

# 単元名 「1 くみのともだちの

## 『きらきらスター』をしょうかいします！」

第1学年 B書くこと（ウ・オ）  
言語活動例B・ア

### ◆本実践の概要

本実践では、前時に録画したインタビュー動画をそれぞれの1人1台端末で視聴しながら、友達の紹介文を書くという、「個別学習」の場を設定した。書く活動は、個人での活動が多くなるため、活動時間や意欲の個人差も広がりやすい。その差を少しでも縮めるために1人1台端末を使用し、スモールステップを意識した実践を行った。

児童が自らの学びを調整し、自分が必要とする方法で紹介文を書き進めることで、個に応じた学習となり、意欲的に言葉を選んだり、順番を変えたりする姿が見られた。

### 1 単元の目標

- (1) 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。  
[思考力・判断力・表現力等]B(1)オ
- (2) 語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。  
[思考力・判断力・表現力等]B(1)ウ
- (3) 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。[知識及び技能](1)オ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。[学びに向かう力、人間性等]

### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。((1)オ)	①「書くこと」において、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	①粘り強く、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、今までの学習を生かして、友達のことを紹介する文章を書こうとしている。

\*本単元では、思考力、判断力、表現力等 B(1)ウ を特に重点的に指導し評価する。

### 3 単元の指導と評価の計画(A「話すこと・聞くこと」29時間中の3時間) (B「書くこと」85時間中の3時間)

次	時	学習活動(○)	指導上の留意点(・)	評価規準・評価方法
第1次	1	① 教師の他己紹介を聞き、誰の話をしているのかを考える。 ② 自分も他己紹介を試みる。 ③ 学習の見通しを持つ。	・ ふだん仲良くしている友達のことも、言語化しようとすると難しいことを実感させる。  ・ インタビューして知った友達のことを、他の人に知らせる文章を書くという学習の流れを確かめる。	

第2次	2	<p>④ 詳しく聞くことの見本ビデオ(担任作成)を見て、インタビューの方法を知る。</p> <p>⑤ インタビュー映像を見て、先生のことを知らせる文章を書く。</p> <p>⑥ 文章を書くときに、難しく感じたことやうまくいかなかったことを出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオは、個別に観られるようにGoogleドライブに保存する。(繰り返し、巻き戻し可能)</li> <li>・上手く書けなかったという気持ちから、次時につなげたいが、文章を書くことにハードルを感じさせないようにしたい。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現①] 観察・ワークシート①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を視聴して、分かったことをもとに、まとめや順番を考えて書き表し方を工夫しているかの確認。</li> </ul>
	3	<p>⑦ インタビュー映像から、分かったことをどのような順番で書くか考える。</p> <p>⑧ ⑤で書いた文章をもう一度見直し、付け加え等する。</p> <p>⑨ 次の時間に、友達にききたいことを出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語の前单元や生活科での文章を書いたときに、気を付けたことを思い出させる。</li> <li>・質問する内容の見通しをもてるよう、まず、どのようなことをきいてみたいかを出し合う。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現①] 観察・ワークシート②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を視聴して、分かったことをもとに、まとめや順番を考えて書き表し方を工夫しているかの確認。</li> </ul>
第3次	4	<p>⑩ ペアになってきき合い撮影する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見本ビデオは、個別にみられるようにchromebookに保存する。(繰り返し、巻き戻し可能)</li> </ul>	<p>[知識・技能①] 発言・ワークシート③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付いているかの確認。</li> </ul>
	5 (本時)	<p>⑪ 映像を見直し、分かったことをメモする。</p> <p>⑫ インタビューして分かったことをどのような順番で書くか考える</p> <p>⑬ 友達のことを知らせる文章を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が思ったことなども書けるようなワークシートを作成する。</li> <li>・大まかなまとめと書く順序を示し、文章を書くことへの抵抗感を与えないようにする。</li> <li>・書いた文章を読み直す習慣をつけたい。</li> </ul>	<p>[思考・判断・表現①] 観察・ワークシート④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を視聴して、分かったことをもとに、まとめや順番を考えて書き表し方を工夫しているかの確認。</li> </ul> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] 観察・ワークシート⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫しているかの確認。</li> </ul>
第4次	6	<p>⑭ 互いの文章を読み合う。</p> <p>⑮ 友達の文章を読んだ感想を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の文章の「まねしたい」と思うところを考えながら読むようにさせる。</li> <li>・文章の読み合いは、特定の児童に偏らないように、縦割り班を利用したり、保護者や先生方、他のクラス、他校にも協力してもらったりする。(Googleドライブの活用をしながら)</li> </ul>	

#### 4 本時の授業

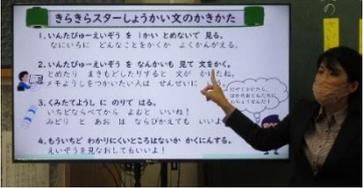
(1) 目標 質問して分かったことを基に、まとめや順番をおさえながら、友達のことを知らせる文章を書くことができる。

(2) 本時の評価規準

質問して分かったことを基に、まとめや順番を意識しながら、友達のことを知らせる文章を書いている。

[思B][観察・ワークシート]

(3) 本時の展開

過程 (時間)	主な学習活動(No.)と 予想される児童の反応(-)	指導及び留意点(・)	評価について
つ か む  5分	<p>1 前時の学習を振り返るために、教室内の掲示を見ながら、友達のことを知らせる文章を書くためのポイントを確認する。</p>  <p>2 本時のめあてと活動を知る。</p>	<p>①ともだちががんばっていること(黄) ②きいてわかったこと(緑) (はじめに聞き取ったこと) ③きいてわかったこと(青) (次に聞き取ったこと) ③じぶんがおもったこと(桃)の順番を、前時に書いた「先生の紹介文」を読んで振り返り、参考にさせる。</p>	<p>『「書くこと」における自身の学習状況を理解し、ワークシート等の教材を自ら選択して課題に向かおうとする姿』への手立て ○学習過程の工夫</p>
<p>単元全体の目標 「くみのともだちの『きらきらスター』しょうかいブック」をつくろう。</p>			
<p>きょうのめあて ともだちの『きらきらスター』しょうかい文をかこう</p>			
追 究 す る  30分	<p>3 ともだちの『きらきらスター』を書く。 一字をていねいにかくこと。 一てんやまるをわすれないようにすること。 一じゅんばんをぐしゃぐしゃにしないこと。 一よみやすいように、ながさにきをつけること。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートは、罫線のみのもので穴埋め式のものを用意する。項目ごとに色上質紙に短冊を印刷したものをワークシートとして用いる。</li> <li>前時までの学習を振り返るために、教室内の掲示を見ながら文章を書くためのポイントをおさえる。</li> <li>早く書き終わった児童には、他の児童が撮影した映像をもとに紹介文を書いてよいことを伝える。</li> </ul>	<p>〔思考・判断・表現①〕 観察・ワークシート 質問して分かったことを基に、まとめや順番を意識しながら、友達のことを知らせる文章を書いているかの確認。</p>
ま と め る  ・ 深 め る  10分	<p>4 書いた文の読み直しをする。 一なんかいもビデオをみたけど、かけた。 一もっとかきたいことがあった。 一いま、よみなおしたらてんがぬけててすこしよみづらかった。 一ぼくは、きいてわかったことのじゅんばんをあお・みどりのじゅんにしたよ。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返るために、黒板の掲示を整えておく。必要に応じて、一緒に読んであげる等の支援を行う。</li> <li>もう一度、ビデオを見直したり、書き加えをしたりしてよいことを伝え、自分の満足する紹介文を書くように声をかける。</li> </ul>	<p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕観察・ワークシート 粘り強く、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとめが分かるように書き表し方を工夫し、今までの学習を生かして、友達のことを紹介する文章を書こうとしているかの確認。</p> 
<p>『端末に保存してあるインタビュー動画を何度も見直しながら、まとめや順番に着目して紹介文を書き直す姿』への手立て ○ICTの活用</p>			

## 5 実践を振り返って（ICTの効果的な活用について）

本実践では、①インタビューの方法を知る場面 ②インタビュー映像を撮影する場面 ③インタビュー映像を紹介文に書き起こす場面 ④紹介文を読み合う場面でICTを活用した。

① の場面では、担任が作成したインタビュー映像を Chromebook で視聴し、インタビューの方法を学んだ。何度も繰り返し見たり、止めて見たりすることができたので、はじめてインタビューの仕方を学んだ1年生にとって役に立つツールとなった。ただ、言葉の使い方などに注意しながら作成する必要がある。

② の場面では、友達にインタビューしている様子を撮影し、Google ドライブに保存した。インタビューは、メモを取りながら聞きとる形が多いと思うが、1年生にとって聞き逃しがあつたり、分からない言葉をあとで聞いたりすることが想定されたので、映像を残す形をとった。



③ の場面では、インタビュー映像を何度も自由に視聴できるような環境作りを行った。一斉に児童が再生すると音声聞き取りにくくなるためイヤホンを使用させた。また、何度も繰り返し見たり、止めて見たり、巻き戻したりしていいことを伝え、児童の学習の進度に合わせて選択させた。Google ドライブに保存することで、自分がインタビューした以外の友達の紹介文づくりにも挑戦できるようにした。



④ の場面では、PDFにした紹介文を6年生に見てもらい感想をもらった。1冊の冊子にしてしまうと、6年生は、一斉に読むことはできないが、この方法を取ることで、6年生が一斉に目を通すことができた。本学期には、叶わなかったが、他校や他学年にも見せたいという希望が児童からもあがつたため、今後取り組んでいきたい。

## 6 評価の実際

[思考・判断・表現]の評価について

第2次2・3時の中で、「映像を視聴して、分かったことをもとに、まとまりや順番を考えて文章を書いている。」姿をBの姿「おおむね満足できる」と捉え、授業内の取り組みの様子やワークシートの記述をもとに評価した。映像を視聴した際の言葉をそのまま書き起こしている児童は、支援が必要だと感じたため、ワークシートを穴埋め式にして、文章を書く手助けを行った。その際に、「先生のがんばっていることを聞いて、どう思った?」と問いかけることで、「長い文を読めるように勉強していて、すごいと思った。」「ぼくもがんばりたいと思った。」という児童の発言を基に、書き進められるようにした。最後の自分の感想まで、自力で書くことができた児童は、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

本時においては、「質問して分かったことをもとに、まとまりや順番をおさえながら、友達のことを知らせる文章を書いている。」姿をBの姿「おおむね満足できる」と捉え、授業内の取り組みの様子やワークシートの記述を基に評価した。本時も同様に、映像を視聴した際の言葉をそのまま書き起こしている児童は、ワークシートで支援を行った。その中でも、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりを意識して書いている児童は、「十分満足できる」状況(A)と判断した。



[主体的に学習に取り組む態度]の評価について

本時の中で「粘り強く、語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫し、今までの学習を生かして、友達のことを紹介する文章を書こうとしている。」姿をBの姿「おおむね満足できる」と捉え、授業内の取り組みの様子を基に評価を行った。自分がインタビューした友達だけでなく、他の友達の紹介文にも挑戦した児童は、粘り強く取り組んでいると評価をした。その中でも、今までの学習を生かして、句読点や字形を意識して書いている児童は、「十分満足できる」状況(A)と判断した。